

能楽 ワークショップ

日本の 伝統文化を 体験しよう



日本の伝統芸能「能楽」に親しむワークショップを開催します。
親子で楽しく「能楽」の面白さ、奥深さを学びましょう。



横浜
会場

2026年1月31日(土) 10:30開始
12:30終了
神奈川県立青少年センター 練習室

横浜市西区紅葉ヶ丘9-1 交通アクセス：桜木町駅 徒歩約10分
定員：30名（神奈川県内の小・中学生とその保護者。小・中学生のみの参加も可）

■講師／中森貴太（観世流シテ方、重要無形文化財総合指定保持者）他
■料金／1人1,000円
■申込締切／横浜会場：2026年1月9日（金） ※応募者多数の場合は抽選

■申込方法／下記の県ホームページ内の申込フォーム
<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/yi4/nougaku.html>



問合せ先：神奈川県文化課文化事業グループ TEL.045-210-3808

◆主催：神奈川県、公益財団法人鎌倉能舞台 ◆共催：神奈川県立青少年センター

のうがく こども能楽ワークショップ

番組

- ① 能ってなあに? おはなし: 中森 貫太 《15分》
- ② 能と狂言はどう違うの? 動きや台詞の比較 《15分》
仕舞・小舞「鶺鴒(鶺ノ段)」
- ③ 体験してみよう 《40分》
～謡曲体験「能の高砂を謡ってみよう」～
～狂言の動き体験～
～能面体験「能面をかけてみよう」～



休憩 10分

- ④ 能装束着附実演鑑賞 ～「高砂」の装束を着附ける～ 《20分》
- ⑤ 実演 ～仕舞「高砂」鑑賞～ 《10分》
- ⑥ 質問コーナー 中森 貫太 《10分》



【出演者】 シテ方: 中森 貫太

観世流シテ方、重要無形文化財総合指定保持者、東京芸術大学卒、
(公財)鎌倉能舞台業務理事、(公社)観世九阜会メンバー

「全ての子どもに能・狂言鑑賞の場を」

日本の「能楽」は、「人類の口承及び無形遺産の傑作」として2001年に宣言され初指定された、ユネスコの世界無形文化遺産です。しかし、どれだけ日本人が能・狂言を見たことがあるのでしょうか? これからの日本を作っていく子供たちに、能・狂言を見て貰い、自国の伝統芸能に対する造詣を深めて欲しい。そう鎌倉能舞台は考えます。

主な出演者紹介



中森貫太 (なかもり かんた)

1961年生。観世流能楽師シテ方。東京芸術大学卒。重要無形文化財総合保持者。
故 父 中森晶三、三世 観世喜之師に師事。
公益財団法人鎌倉能舞台業務理事、公益社団法人観世九阜会会員。慶應義塾湘南藤沢中等部・高等部講師。
鎌倉能舞台主催公演の他、薪能、市民能、学生を対象とした能楽教室等、能の普及啓蒙 活動に積極的に取り組んでいる。

能とは

能は今から約六百年前、室町初期に観阿弥・世阿弥という父子の天才によって大成された現存世界最古の演劇です。しかも江戸時代の支配階級である武家の式楽として大切に保護・熟成され、主要な演出法、台本、装束道具類もほとんど草創当時のままに正確に、しかも恵まれた環境のなかで磨き抜かれ、深められて今日に伝えられている、非常に貴重な文化財です。

その特徴とする諸点は実に多く、簡単に説明は出来ませんが、主な点を挙げてみると、

① 舞台: 幕がなく、見物席に大きく張り出した本舞台と、楽屋との通路であるとともに第二舞台としての役割もする橋懸を持つ特殊なもの。

② 演出: 純然たる劇というよりも、「語り物」としての色彩を強く残し、又一面舞踊劇、音楽劇の要素も強い。色々な約束ごとも多いため、かなりの予備知識を必要とする。

③ 謡曲: 能のセリフと歌を謡曲と云い、日本語としても完成された発声法と独特な音階を持つ。中世の日本語をほとんど正確に伝えていると考えられ、発音用法、文法などを調べる上に貴重な資料となっている。

④ 能面: 能の主役(シテ)は原則として仮面をつける。これは素顔ではとても表現できない強さ・恐ろしさ、美しさ・気高さを的確に現せるために、ほかのあらゆる不便をしのいで使用している。